

令和7年度「全国学力・学習状況調査」における南丹市の結果の概要

南丹市教育委員会

1 実施概要

全国学力・学習状況調査は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てること、さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することを目的として、全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に実施されています。調査の内容は、次のように教科に関する調査と質問調査からなっています。調査事項は下記の通りです。

(1) 教科に関する調査（小学校：国語、算数及び理科 中学校：国語、数学及び理科）

国語、算数・数学及び小学校理科は、冊子を用いた筆記方式で実施し、中学校理科は、生徒が活用するタブレット端末を用いたオンライン方式（「CBT」= Computer Based Testing）で実施する。

出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

(2) 児童生徒質問調査

調査する学年の児童生徒を対象に、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問調査を、児童生徒の活用するタブレット端末を用いたオンラインによる回答方式で実施する。

○実施日 令和7年4月17日（木）

○科目・時間 小学校6年生 国語（45分） 算数（45分） 理科（45分） 質問調査（20分程度）
中学校3年生 国語（50分） 数学（50分） 理科（50分） 質問調査（20分程度）

令和7年度の南丹市全体の調査結果をとりまとめましたので、その概要をお知らせします。調査結果はあくまでも児童生徒の学力の一部であることにご留意ください。また、質問調査は、普段の生活等に対する調査で、その回答結果からは児童生徒の今の学習状況や生活の様子についてうかがい知ることができますので、併せてお知らせします。

2 南丹市の状況について

(1) 各教科の概要

南丹市の状況を、全国の平均正答数と並列して表しています。

教 科	小学校 6 年生の平均正答数			中学校 3 年生の平均正答数		
	問題数	全 国	南丹市	問題数	全 国	南丹市
国 語	14	9.4	9.4	14	7.6	7.3
算数・数学	16	9.3	9.2	15	7.2	6.2
理 科	17	9.7	9.6	6	2.9	3.0

【小学校 国語の概要】

- 小学校国語全体は全国平均と同等の正答状況でした。全国平均を上回った学校は5校で、学習指導と児童の学びが、よい形で進められていることが見て取れました。学習指導要領の内容別では、「読むこと（4問）」が全国平均を下回りましたが、それ以外は全て上回りました。「読むこと」の問題は、「複数の資料を読み、分かったことや考えたことをまとめること」が求められる内容でした。目的に応じて、文章と図表を結び付けるなどして必要な情報を見つけることができるように、授業改善と指導の充実を図ることが大切になります。

「問題形式別」では、一昨年度まで課題が見られた「記述式（2問）」は、昨年度に引き続き今年度も全国平均を上回りました。指定された字数で書き表したり、指定された言葉や文を使って工夫して書き表したりする問題で、無答率も全国平均を下回りました。（全国：5.0%に対し市：1.8%と、全国：16.2%に対し市：9.7%）児童に、書く力とともに粘り強く問題に取り組む力が育っていることが見られました。

【小学校 算数の概要】

- 小学校算数全体も、全国の平均とほぼ同等の結果で、全国平均を上回った学校は4校でした。学習指導要領の領域別、評価の観点別、問題形式別、いずれの結果においても全国平均とほぼ同等で、大きく下回る内容・項目はありませんでした。問題別で全国平均を最も上回ったのは、「異分母の分数の加法の計算をすることができるか（ $1/2 + 1/3$ を計算する）でした。（全国：81.3%に対し市：91.7%） 分数の基礎的・基本的な計算の力を、くり返し練習して身に付けていると考えます。一方で、そのひとつ前の問題の「数直線上に示された数を分数で書く」の正答率は、全国：35.0%に対し市：34.6%でした。ほぼ同等ですが、計算の力とともに数の仕組みや意味について理解を深めることが大切です。

無答率は、小学校算数の各問題においても低い結果が示されました。各問題の無答率の合計は、全国：57.7%に対し市：19.0%で、ここでも児童が粘り強く問題に取り組んでいることが見られました。また、課題であった得点分布の中でのA層の児童の割合も、全国の状況を上回りました。

【小学校 理科の概要】

- 小学校、中学校ともに、理科は3年に1度実施されています。前回の実施は、令和4年度でした。その時の結果は、全17問中、全国の正答数は10.8問、南丹市の正答数も10.8問で同程度でした。正答数の分布も全国とほぼ同様の状況で、5校が全国平均を上回っていました。

今年度も5校が全国の平均を上回りましたが、市全体の正答数ではわずかに下回る結果となりました。理科についても、学習指導要領の領域別、評価の観点別、問題形式別で、大きく下回る内容・項目はありませんでした。問題別では、「エネルギー」を柱とする領域の問題で課題の見られる問題がありました。「電気の回路のつくり方について、実験の方法を発想し、表現することができるかどうかをみる」内容で、授業では実験をもとにして、回路がつながっているかどうかを確認するなど、実験の計画を振り返ったり修正したりする活動が大切になります。

【中学校 国語の概要】

- 国語全体では、全国の平均正答数7.6に対して南丹市は7.3でした。全国平均との差は0.3で、昨年度と同様でした。（昨年度 全国平均：8.7 市平均：8.4） 全国平均を上回った学校は1校で、昨年度と同様でした。学習指導要領の内容別・評価の観点別・問題形式別では、短答式がプラスで、それ以外はわずかずつのマイナスでした。問題別で見ると、全国平均に比べて最も差が大きかったのは「書くこと」「思考・判断・表現」「記述式」の内容で、自分の考えが伝わる文章になるように根拠を明確にして書く問題でした。授業の改善では、相手や目的を明確にして自分の考えとその根拠を簡潔に（100～200字程度で）書くことと、その文章を検討したり改善したりすることが大切になります。

【中学校 数学の概要】

- 数学全体では全国の平均正答数7.2に対して南丹市は6.2と、今回の調査の中で全国平均を一番下回る厳しい結果でした。その差は1問で、昨年度の0.6問から広がりました。昨年度は、学習指導要領の領域の「C関数」及び「Dデータの活用」は全国平均と同等、「A数と式」及び「B図形」に課題のある状況でしたが、今年度はすべての領域がマイナスとなりました。また、昨年度は記述式に課題が見られましたが、今年度は記述式より選択式問題に課題が大きくみられました。その選択式の問題は、全て知識・技能を問う内容で、課題が最も大きかったのは、「1から9までの数の中から素数を全て選ぶ」という、「素数の意味の理解」を問う内容でした。以前は小学5年の学習内容でしたが、現在は中学1年で学習します。1を素数に含めた誤答率は、全国50.3%に対し南丹市66.4%でした。素数の意味理解（定義）とともに、素因数分解することを通して素数や整数の性質についての理解を深めることができるようにすることが大切です。また、学習内容を機会を見つけて復習し定着を図ることも大切になります。

【中学校 理科の概要】

- 今年度、中学校理科は生徒が活用するICT端末を用いたオンライン方式（「CBT」＝Computer Based Testing）により、複数日程で実施されました。問題は、①「公開問題」と②「非公開問題」を組み合わせで出題され、生徒1人あたり①「公開問題」10問と②「非公開問題」16問を解く構成とされました。①「公開問題」は、㉞「全日程に共通する問題」（6問）と㉟「実施日により異なる

問題」(4問)での実施です。そのため④の問題は、各学校の4日間の実施日程により異なる問題が出題されています。②「非公開問題」は、生徒ごとに異なる問題が出題され、個々の問題の内容や結果は公開されていません。このような問題構成から、①「公開問題」のみの結果が示されています。そのため、市立中学校の全体の結果状況は、先に記載した2(1)の、⑦「全日程に共通する問題」(6問)の結果となります。

この6問は、水をテーマに科学的に探究する内容で、学習指導要領の領域「エネルギー」「粒子」「生命」「地球」の問題が出題されています。市全体では、全国平均をわずかですが上回りました。この中で「生命」に関わる問題が、全国平均正答率29.7%に対し市平均正答率が40.0%と、最も上回りました。問題内容は、水の中の生物を観察する場面で呼吸を行う生物を選ぶことで、生命を維持する働きに関する知識を確認するものでした。

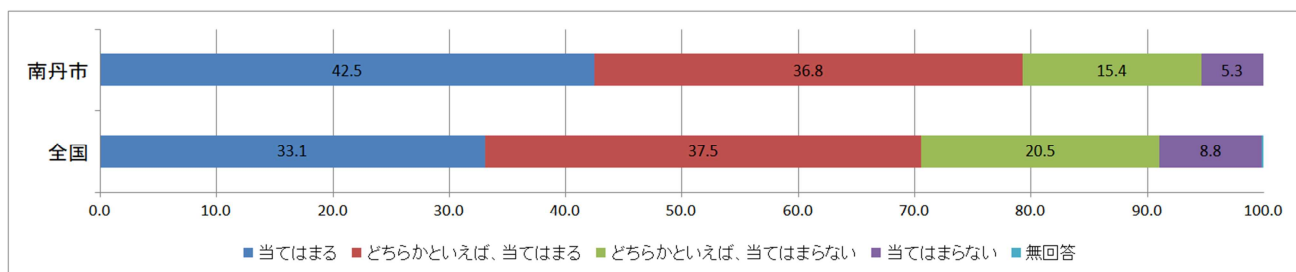
なお、小学校と同様に中学校理科も前回の実施は令和4年度でした。その時の結果は、全21問中、全国の正答数は10.4問、南丹市の正答数は10.3問でほぼ同等でした。正答数の分布も全国とほぼ同様の状況で、2校が全国平均を上回っていました。

(2) 質問調査の概要

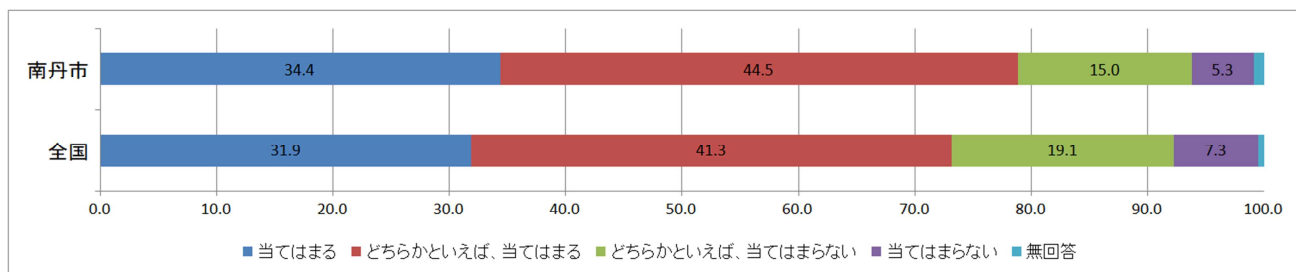
本調査は、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問項目がありました。ここでは、南丹市の結果と全国の結果を比較して特徴のある項目について取り上げます。

困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか

○小学校



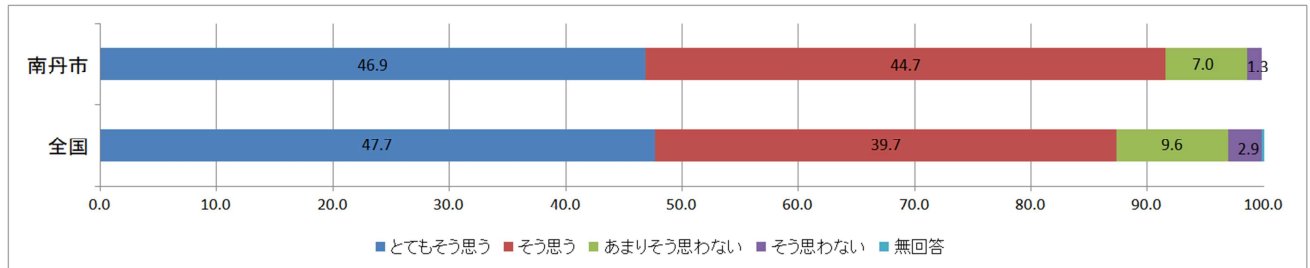
○中学校



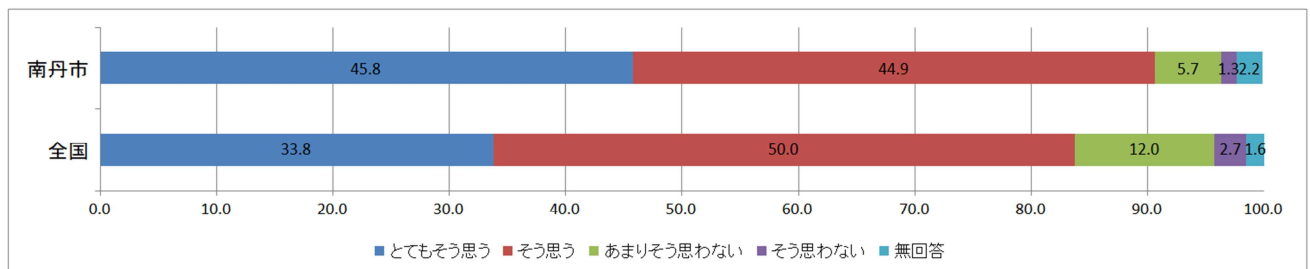
この項目は、挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等にかかわる項目です。中学校では肯定的な回答が全国平均を少しずつ上回る状況ですが、小学校ではより肯定的な回答が示されました。児童生徒が、日々、学び成長する場である学校が、児童生徒にとって安全で安心できる場であることは、とても大切なことです。小学校・中学校ともに、「どちらかといえば、当てはまらない」「当てはまらない」と回答している児童生徒が一定数いることを踏まえ、より一層、心理的安全性が保たれるよう努めていきたいと思います。

先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか

○小学校



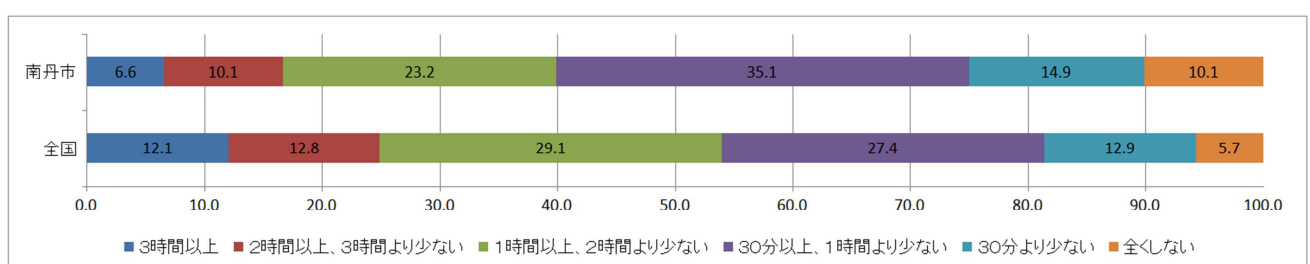
○中学校



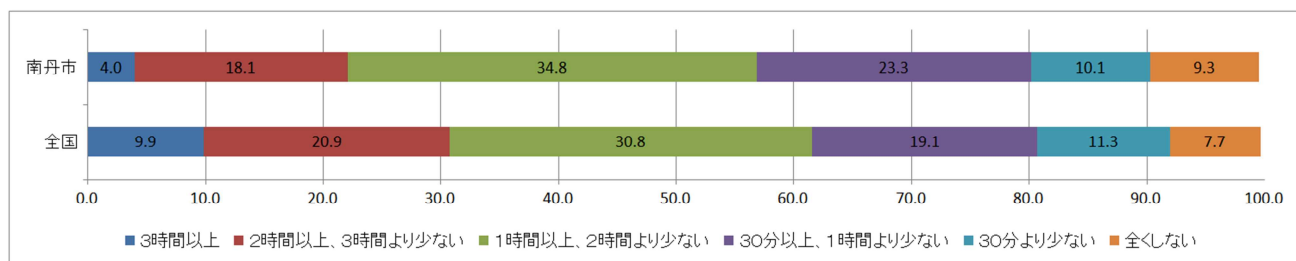
この質問項目は、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況にかかわる項目です。先の質問項目と同様に、児童生徒が授業や様々な学びの機会に心理的安全性が確保されていることが問われていると考えます。小学校は「とてもそう思う」はわずかに下回りますが、「そう思う」を含めて全国平均を上回っています。中学校は「とてもそう思う」が全国平均を大きく上回っています。各学校の、児童生徒一人一人の学びに寄り添う取組が、児童生徒の粘り強い学びにつながっていることを大切にしたいと思います。同じ質問グループには、「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」や、「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか」の質問項目があります。

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

○小学校

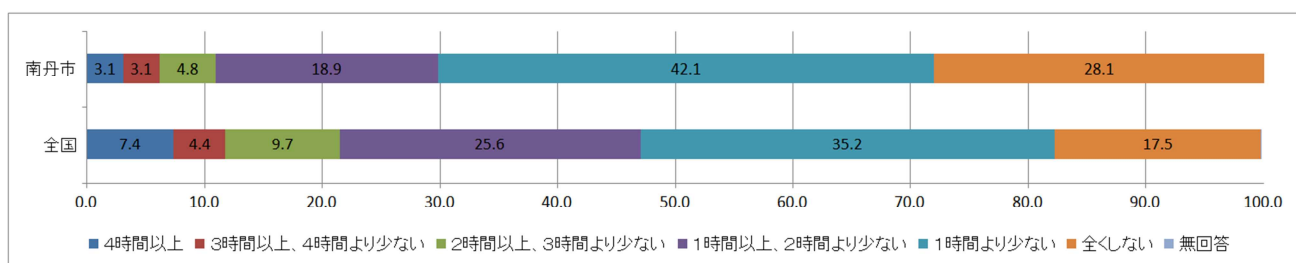


○中学校

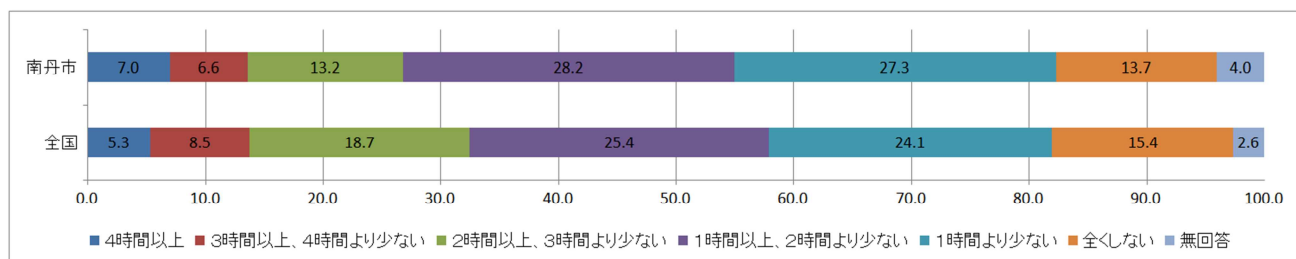


土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

○小学校



○中学校



この2つの質問項目は、学習習慣、学習環境等に関する項目です。先の質問項目では、児童生徒が授業や様々な学びの機会の中で心理的安全性が確保されていることが示されていましたが、ここでは、児童生徒が学校以外の、家庭や学習塾、インターネットを利用して学んでいる時間についての回答状況です。

平日、土曜日・日曜日、小・中学校ともに全国と比較して学習時間が短いことが課題として挙げられます。その中でも特に、小学校の「全くしない」が平日、土曜日・日曜日ともに多い状況です。

昨年度はここで、普段の1日当たりの、（1）テレビゲームをする時間、（2）携帯電話やスマートフォンでSNSや動画を視聴する時間についてお知らせをしました。小学校は（1）（2）ともに4時間以上の児童が全国平均を上回り、下校後の家庭生活の中で大きな時間を占めていること、中学校は（1）は1時間以上（2時間以上・3時間以上・4時間以上を含む）の生徒が全国平均より多いこと、（2）については2時間以上の生徒が多いことが課題でした。SNSを中心とした利用指導、家庭学習の時間が十分に確保されることが、昨年度に引き続き課題です。主体的な学びとなる家庭学習内容への工夫改善を進めたいと思います。ご家庭での協力や子どもたちへの励ましをよろしくお願いいたします。

3 子どもたちの豊かな学びと育ちのために

南丹市教育委員会では、「第2次南丹市教育振興基本計画」及び「令和7年度南丹市教育の指針」に基づき、南丹市の児童生徒一人一人に生涯にわたって学び続けることができる基礎基本の習得を図りながら、未来に向かってたくましく生きる力を育成するために、一人一人の能力を引き出し、個性を伸ばす教育の推進に努めています。市内の各学校においては、指導の工夫・改善を図る観点に立って、この「全国学力・学習状況調査」の結果を有効活用しています。

子どもの豊かな育ちには健やかな心と体の成長が欠かせないことは勿論ですが、子どもたちが小中学校の学習内容を十分習得することは、中学校への入学や義務教育の出口となる中学校卒業後の進路を自身で切り拓くために極めて重要であると考えています。

南丹市教育委員会は、就学前の段階から、各中学校ブロックでテーマを設定した教育研究事業や市立小・中学校の公開授業研究会を開催して、教員が互いに学び合いながら授業力を高める取組など、南丹市教育の強みを生かして「全ての子どもの可能性を伸ばし進路を実現する教育」を進めてまいります。

これからも引き続き、保護者の皆様、市民の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。